



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	福島県内に生息するイノシシの放射性セシウム濃度について
Alternative_Title	Radioactive cesium concentration of wild boars living in Fukushima Prefecture
Author(s)	大町 仁志(福島県環境創造センター), 根本 唯(福島県環境創造センター), 斎藤 梨絵(福島県環境創造センター), 溝口 俊夫(福島県環境創造センター) Omachi, H.(Fukushima Prefectural Center for Environmental Creation); Nemoto, Y.(Fukushima Prefectural Center for Environmental Creation); Saito, R.(Fukushima Prefectural Center for Environmental Creation); Mizoguchi, T.(Fukushima Prefectural Center for Environmental Creation)
Citation	第5回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.69 5th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	ポスターセッション1: 陸域海域の汚染・野生生物・食の安全
Text Version	Publisher
URL	http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/109486
Right	© 2016 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第5回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



福島県内に生息するイノシシの放射性セシウム濃度について

○大町仁志、根本唯、斎藤梨絵、溝口俊夫
福島県環境創造センター

1 はじめに

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、放射性物質による広大な範囲の環境汚染を生じさせた。自然環境に生息する野生動物も例外ではなく、環境中の放射性セシウムが食物などから体内に取り入れられたことにより、多くの野生動物において放射性セシウムが検出されている。福島県では、2011年から野生動物の筋肉に含まれる放射性セシウム濃度のモニタリングを、2013年からは環境から野生動物体内への放射性セシウムの移行メカニズムに関する研究を開始した。野生動物の中でも、特にイノシシ(*Sus scrofa*)については、高い放射性セシウム濃度が検出されている(図1)。体内で放射性セシウムが検出されるのは、これらを含む食物を食べることによる同化が原因と考えられたことから、イノシシの筋肉及び胃内容物に含まれる放射性セシウム濃度について調査を行った。

2 調査方法

調査の対象となるイノシシは、福島県内においてくくりワナまたは銃により捕獲された個体を使用した。同じ個体の筋肉及び胃内容物に含まれるガンマ線放出核種の測定(湿潤重量)を行った。

3 結果・考察

筋肉と胃内容物に含まれるセシウム¹³⁷濃度において、強い正の相関がみられた(図2)。このことから、イノシシの筋肉に含まれる放射性セシウム濃度は、食物に含まれる放射性セシウム濃度に強い影響を受けているものと推測された。

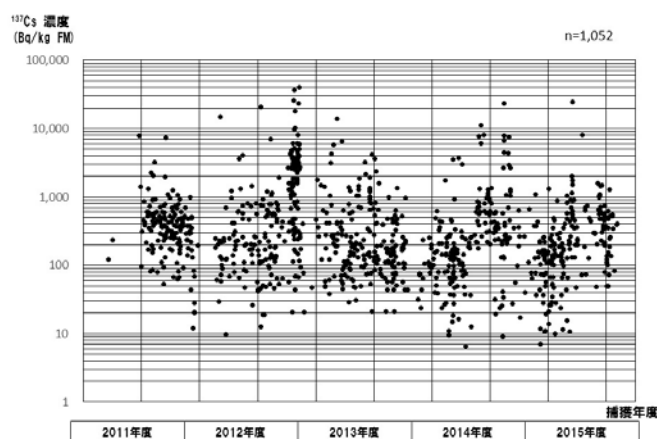


図1 イノシシの筋肉中におけるCs137濃度の時系列変化
(福島県 2011-2015年度)

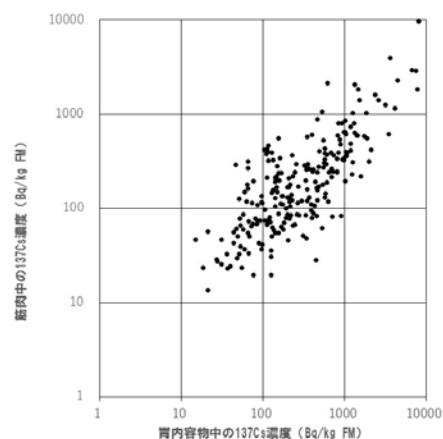


図2 イノシシの筋肉と胃内容物の関係
(福島県 2013-2015年度)